

16. 縄文のサヌカイト原産地 四国 坂出「金山」に「サヌカイト・讃岐石」を訪ねる

2007.8.6、坂出市 金山 By Mutsu Nakanishi



四国 坂出 縄文のサヌカイト鉱山「金山」 国道11号線 金山トンネル出口周辺より 2007.8.6.

「縄文の翡翠の原産地・黒曜石の原産地も訪れたし、『サヌカイトの原産地』にも訪れたい」と「縄文のサヌカイト鉱山」といわれる主要原産地 四国 坂出の「金山」を訪れました。

黒曜石・翡翠と並ぶ縄文の重要交易品「サヌカイト」。特に西日本では 縄文時代を支える道具・武器の材料である。硬い石で、叩き割ると鋭く鋭利な黒い貝殻状の破面が剥ぎ取れるので、石器時代には道具や武器に加工して使われた。また、叩くと「カンカン」と高い金属音がするので、「カンカン石」とも呼ばれ、最近では石琴などの楽器にも製作されている。

もともと四国讃岐地方で産するガラス質の緻密で黒色の安山岩・讃岐石(非晶質古銅輝石安山岩)に付けられた名

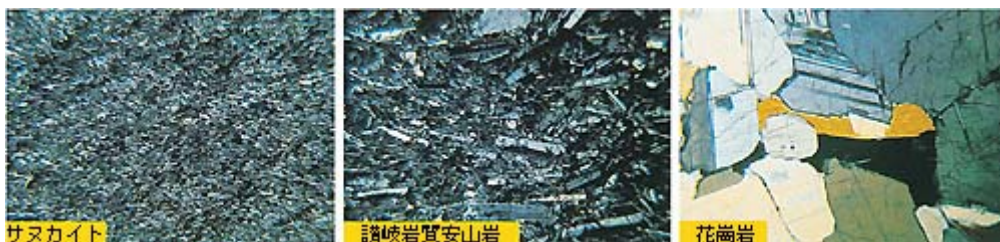
前で、讃岐地方のほか、二上山や三河鳳来寺山地域に特徴的に産し、銚子や小笠原父島でも産する。

この岩石は、地球を構成するマントル内で溶けて出来た安山岩質マグマで、一般の安山岩よりもマグネシウムの含有量が多く、斜長石の班晶はほとんど見られないガラス質の火山岩で、「古銅輝石」【 $(\text{Mg}, \text{Fe})_2\text{Si}_2\text{O}_6$ 】と呼ばれる細かい小針状結晶鉱物が特徴的に含まれていることから非晶質古銅輝石安山岩と命名された。

基質はガラス質・非晶質であるが、また、見た目にはあまり変わらない、ごく少量の斜長石の班晶を伴うサヌカイト質安山岩も「サヌカイト」の仲間に入れて呼ばれることもある。



四国讃岐地方のサヌカイト主要原産地帯



香川県立五色台少年自然センター自然科学館 <http://www.pref.kagawa.jp/sizeka/index.htm> より

近畿には 四国と並ぶ「サヌカイト」の原産地 二上山北麓「屯鶴峰」があり、一度以前に出かけたのですが、どれがサヌカイトなのか 判別をすることが出来ず、特徴ある貝殻状破面を出すことができませんでした。

「四国に行ったら、石垣などにも使われていて、直に見られる」と聞いて、直接黒い破面を出したくて、「サヌカイト・讃岐石」の名前の由来の四国へ。

サヌカイトは火山活動で 吹き飛ばされた安山岩質マグマが急冷して固まったものなので、岩質は異なりますが、ガラス質・非晶質が基質のため、鋭く鋭利な黒い貝殻状の破面が剥ぎ取れるので、縄文の鋭利な刃先を持つ道具・武器の主要材料となり、また その産地もごく限られた地域にしか産出せず、縄文の主要交易品のひとつとなりました。

四国のサヌカイト原産地を調べていて、坂出の「金山」にぶち当たる。

「金山」の名前にひかれ、ひょっとして、「金山」は サヌカイトばかりでなく、鉱物資源が出る山ではないか???と。インターネットで調べてみると、「金山」は、「JR 坂出駅のすぐ東の小さな山で、現在は個人の所有地であるが、山中あちこちでサヌカイトが散在するのが、今見られる」という。

ほかにも 周辺には国分台や城山などの原産地があるが、二上山同様なかなかサヌカイトを見つけるのは難しいという。益々「金山」が気になって、名前の由来なども調べ始める。

「金山」の地名は打てば金属音を発する石(カンカン石)が累積しているのでこの名があるという説もある。

また、「金山」周辺には「鉄」と関係の深い炭焼き長者伝説に通ずる「乙姫様と花婿どん」や「金山」に住む金山長者と向かいの「城山」に住む城山長者との「宝比べ」などの民話が残っており、サヌカイトの主要原産地である「金山」・「城山」には長者がいたようです。

財を成したのは やっぱり 鉱物資源か・・・。

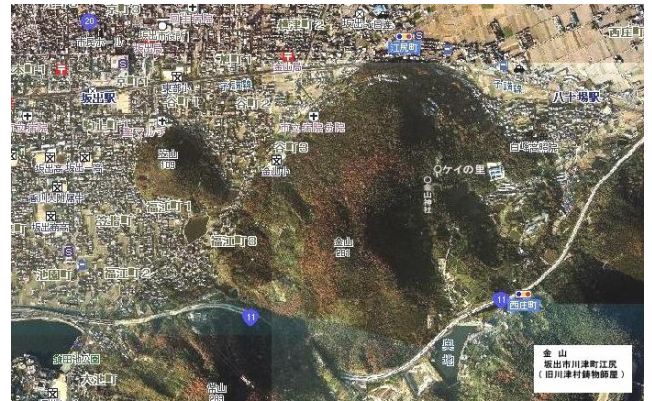
頂上部のサヌカイトが風化した粘土層の中にボーキサイトがあり、戦時中に掘り出して、アルミニウムに精錬されたといい、また、地図を調べると「金山」の中腹には金山の神を祭る金山権現・金山神社があり、この金山神社の祭神は金属精錬・鍛冶と関係深い「金山彦」である。

また、サヌカイトには磁鉄鉱粒が多く含まれている(FeO 換算で約5%程度)し、この神社のある坂出市川津町江尻町の旧地名は「川津村鋳物師屋」である。

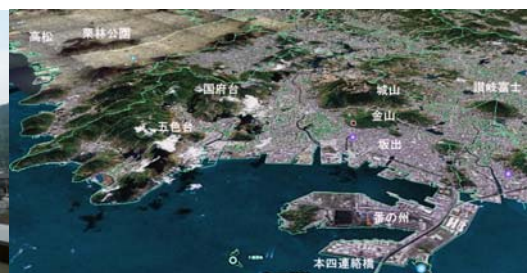
ひょっとして この金山で やっぱり、「鉄・砂鉄」が出たのではないかと考えたのですが、詳細はまだ解らずです。

でも 「サヌカイト」と「金山」の地名 そして 其処にはゴロゴロ「サヌカイト」が転がっていると聞いて、とにかく坂出に行ってみようと8月6日 広島からの帰りに坂出に出かけました。

半日 「金山」の周辺を「サヌカイト」を探しながらのwalkを楽しんで帰りました。



インターネットで調べた坂出の「金山」周辺航空写真



坂出駅から見た「金山」と金山・坂出 周辺図

○ 参考

Country Walk

糸魚川・青海に縄文のヒスイ原石の谷を訪ねる 2005. 5. 17. &18.

<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/pdfwalk/4walk06.pdf>

Country walk

甲州・信州国境 ハケ岳山麓に縄文遺跡を訪ねて 2006. 10. 6. -10. 10.

3. 縄文の黒曜石原産地遺跡 黒曜石を日本各地に配っていた信州 霧ヶ峰・中山峠
長和市星屑峠に縄文の黒曜石鉱山を訪ねる

<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/pdfwalk/5walk05.pdf> p19

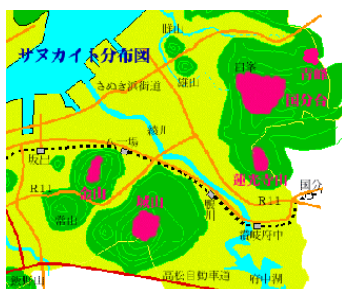
1. 坂出「金山」周辺のサヌカイト・讃岐石 と「金山」にまつわる民話

1.1. サヌカイトの生成とその特徴

坂出市 <http://www.city.sakaide.kagawa.jp/kankou/local/sanukaito.html> より

サヌカイトは、坂出市東部にある五色台及びその付近の山頂周辺などの香川県北部地域に広く分布する古銅輝石安山岩の一種で、瀬戸内地域に起こった火山活動によってマグマが地表に流出し、冷え固まってできた岩石で、サヌカイトとその類縁岩石は、紀伊半島中部から本県を経て、九州北部までの分布を示し、大阪府の二上山には香川県に分布するものとよく似た岩石が見られます。

特に香川県坂出市に位置する金山は、城山、国分台、連光寺山などとともにサヌカイトの一大産出地として知られ、旧石器時代以降、中四国地方では最も普遍的な石器石材としてナイフ形、石鏃、スクレイパーなど、盛んに製作消費された。広島県洗谷遺跡、愛媛県江口貝塚、糸大谷遺跡などの分析事例から、縄文時代後期以降になると1kgを超す板状の大型石器素材が、瀬戸内海を介して運ばれていたことが知られている。

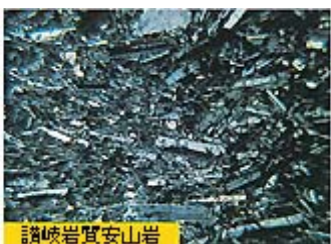


「サヌカイト・讃岐石」の主要分布図

その名が示すごとく四国 坂出の東部 高松の境界をなす五色台やその周辺の山が主産地。

サヌカイトは見かけ上は黒色緻密なガラス質で、斑晶（肉眼で見分けられる粗粒の結晶）に乏しく、叩けばよく響き、かんかん石として知られてきました。顕微鏡下で見ると極めて細粒緻密で、ガラス、斜方輝石、磁鉄鉱、斜長石などから構成されています。岩石分類上は安山岩またはデイサイト（珪酸分のやや多い火山岩）に属します。

斑晶として稀に、マグネシウムに富むかんらん石、斜方輝石が含まれるのが通常の火山岩に見られない特徴です。これらの斑晶は初生安山岩質マグマ（深さ 30-50km のマントルで生じた未分化な安山岩マグマ）から結晶したもので、安山岩成因論の1つである初生安山岩質マグマの存在を裏づける貴重な存在となっています。



香川県立五色台少年自然センター自然科学館 <http://www.pref.kagawa.jp/sizeka/index.htm> より

		超塩基性岩	塩基性岩	中性岩	酸性岩
斑状組織	火山岩		玄武岩	安山岩	流紋岩
	半深成岩		粗粒玄武岩(ドレイイト)	ヒン岩	かこう斑岩
等粒状組織	深成岩	かんらん岩	はんれい岩	閃緑岩	かこう岩
SiO ₂ (重量%)		45%	52%	66%	
色指数		約70% (黒っぽい)	約35%		約15% (白っぽい)
比重		約3.2			約2.7
造岩鉱物	無色鉱物	80 (%)	Caに富む	斜長石	石英
	有色鉱物	20	輝石	カリ長石	Naに富む
化学組成 (重量%)			かんらん石	角閃石	黒雲母
			Al ₂ O ₃		
			FeO+Fe ₂ O ₃ CaO		
			MgO Na ₂ O		

各山のサヌカイトの種類

蓮光寺山のサヌカイト



かつお節状風化



城山のサヌカイト



金山のサヌカイト



国分台のサヌカイト



朽ち木状風化



坂出市 <http://www.city.sakaide.kagawa.jp/kankou/local/sanukaiito.html> より

1.2. 四国 坂出「金山・城山」周辺に伝わる民話

<http://www.city.sakaide.kagawa.jp/kankou/minwa/index.html> より

a. 城山長者と金山長者の宝くらべ

b. 乙姫様と花婿どん

a. 城山長者 と 金山長者 の 宝くらべ

むかしむかし、城山長者が娘を車に乗せて車道（くるまみち）を毎日散歩していた頃、向かいの金山に金山長者という、それは それは 大金持ちの長者が住んでいました。

「今日も城山にたくさんの人が登るとるが、何かあるのか。」

「城山長者の乙姫様を見に行っておるんじゃ。」

「かわいい娘だそうなの。」

乙姫様のうわさ話を聞いた金山長者は、うらやましくなりました。

「わしには娘もない。なんとかして村人も目をわしの方へ向ける方法はないものか。」

「そうだ。わしには金銀や珍しい宝物が山ほどある。これで宝くらべをしよう。」

城山長者に手紙を出して、宝くらべを申し込みました。

金山長者はさっそく、たくさんのお金をかけて、立派な車を作らせました。そして、金銀に宝石をちりばめた置物や、南海の底にある大きなサンゴ、美しい綾・錦・、この世にあるといわれる宝物を山と積み上げました。男衆に牽かせて、城山へ宝くらべに出かけました。村人も大勢集まりました。

今まで一度も見たこともない宝物に、村人は目を見張りましたが、そこへ車に姫を乗せた城山長者がおりてきました。そして、城山長者が「わしの宝はこの娘だ。」と言うと、村人達は、「人の持つとる宝物は目の毒だ。」

「美しい乙姫様がいい。やさしい長者さんやお姫様を見ると、わしの気持ちまで ようなるわ。」と言って、我も我もと、乙姫様のそばへ集まってしまいました。金山長者の宝物は、誰も見る者が居なくなりました。

親子の愛情の深さと、姫の美しさの前には、金山長者の宝物は、まったく値打ちがありませんでした。

宝くらべは、金山長者の負けになりました。

「村人の目さえ引きつけないこんな物 ほーってしまえ」

悔しがった金山長者は、金山の海へ宝物を投げ捨ててしまいました。

それから後、金山の海で捕れる鯛は、うろこに金がふき、キラキラと輝き、味も大変よく、人々から喜ばれ、

「金山鯛」として有名になりました。

出典 「川津のむかし話」昭和58年川津町子供会作成

b. 乙姫様 と 花婿どん

城山長者の娘、乙姫様は、足は不自由でしたが、心の優しい長者や、家で働いている人々のお世話で、立派に成長しました。乙姫様は成長するにつれて、それはそれはまぶしいほど美しいお姫様になりました。長者は、どうにかして乙姫様に三国一の良いお婿さんを選んで、幸せに暮らせようと思いました。長者は、毎日明神原に行き、「すみやかに わが娘乙姫に三国一の花婿を授けてください」と、八百万（やおよろず）の神に、一心にお願いしました。

ある夜のことで。長者が眠っていると、白く長いひげをはやした老人が、枕元に立って、「長者よ 阿波の国に炭焼きをしている若者がおる たいそう働き者で心の優しい感心な男だ 姫の婿にするがよかろう」

「ハ ハイッ」 長者は飛び起き、名前を聞こうと思った時には、老人の姿はスーッと消えていました。

「神様のお告げだ ありがたいことだ」 夜が明けるのが待ち遠しくて仕方ありません。

夜が明けるのを待ちかねて、長者は乙姫の婿さがしに出かけました。 お告げで、『阿波の国』『炭焼きをしている』これだけで捜すのですから大変です。阿波の国は、山また山。山を一つ越すにも一日がかりです。 今日はこの山、あすはあの山、谷を下り、山をよじ登り何日も何日も歩き続けました。

さしにも堅いかねのわらじも、だいぶすり減った頃、深い山間にある一軒の炭焼き小屋を見つけました。

そこで、顔も手足も炭で真っ黒になって、一心に働いている若者を見つけました。その若者の名前を友造といいました。友造は、疲れている長者をいたわり、熱いお茶と梅干しで接待しました。 長者は、一夜の宿を借りて、友造の心の優しさと働き者であることを知りました。長者は、「これこそ神様のお告げの若者だ」「三国一の花婿はこの人だ」と思いました。

「どうか姫の婿になってください お願いします」 友造も、長者の熱意にうたれ、「わたしのような者でよかったら」と、承知しました。 長者は大喜びで城山に帰り、大安吉日を選び乙姫の婿を迎えました。

二人は仲良く暮らしていましたが、ある日乙姫様が病気になるしました。

長者は医者を迎えたり、薬を買いに行かせたり、折とう師を呼んでゴマを炊き、悪病退散を祈ったりしました。友造は、昼も夜も姫のそばに付きっきりで薬を飲ませたり、背中をさすったりして、一生懸命看病しましたが、しかしそのかいもなく、とうとう姫は死んでしまいました。葬式の行列は、子どもの持ったお供えの花かごを先頭に、赤や紫の衣を着た大勢のお坊さん、長者、そして悲しみをこらえた友造が、位牌を胸の所にしっかりと抱いていました。お棺の後には、棺からひかれた白い布につかまって、親戚の人が大勢お供をしていました。よそ行きの着物を着た男や女たちも行列に入り、みんな悲しそうな顔でうつむいていました。

乙姫様の死を惜しんで、長者の家の前にいっぱい集まって来た村人たちも、行列の後ろからぞろぞろと付いていきました。長い長い行列は、長者や友造と楽しく散歩したくま道を通って、別れを惜しむかのように、静かに下って行きました。友造は、長者と相談して、大きな墓を建てて毎日花を供え、線香をあげて供養していました。しかし、この城山の見えるもの聞くものすべてのものが、姫と暮らした楽しかった頃を思い出させ、悲しみのあまり、だんだん体がやせ細っていきました。

「こんなことではいけない 自分の心も身体もだめになってしまう」．．．．．と、

友造は長者にお願いして、大阪に出て働くことにしました。

大阪に出た友造は、悲しさを忘れるために、朝早くから夜遅くまで働きました。

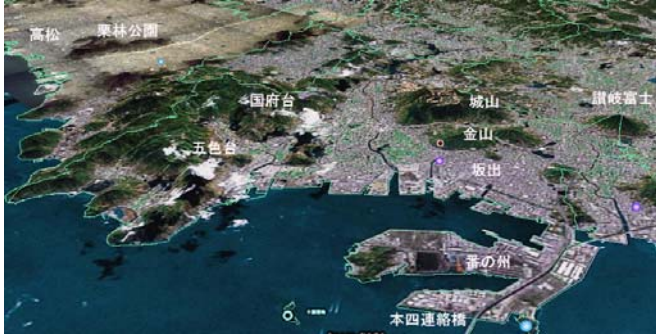
「朝はあさぼし 夜はよぼし 昼はうめぼしください」 力の限り働き続けました。 そして、たくさんのお金を儲け、人々から長者と呼ばれるようになりました。

お金持ちになると、昔のことや苦しかった頃のことを忘れて、つい贅沢に溺れ、ついに滅びていくことが、世間にはよくあります。

友造は、昔の自分が炭焼きをしていた友造を忘れないようにと、「すみとも」と名乗りせつせと働き続けました。

「すみとも」の長者の子孫は、この教えをよく守り、大変、栄えたということです。

2. 坂出駅から金山トンネルを抜けて 城山と金山の鞍部 「奥池」周辺で「サヌカイト」に出会う



サヌカイト原産地讃岐地方 の鳥瞰図



坂出駅から見た金山

8月6日晴れの昼前 岡山から四国ライナーに乗って 瀬戸大橋を渡る。番の州の造船所を見ながら四国に入り、正面の丘陵地の手前で 大きなループを東にカーブすると坂出の駅である。

坂出の街のすぐ南側には小高い山があり、その東にも山が連なっている。この駅の正面の形の良い小さな山が笠山で、その後から東に台形状に伸びる山が「金山」である。笠山が標高109m 金山が283m 小さな小山である。

駅の案内所に行って、「金山」への登口を聞くのですが、金山全体が個人の持山になっているので、頂上部はわからないという。国土地理院の2万5千分の一の地図には点線の道がついていますが、どうもはっきりしない。

また、五色台へもバスもなく、タクシーでないと行き着かないし、「サヌカイト」といっても 見られるところは 良く解らない」とはっきりしない。「サヌカイト」なら、ここでも売っているという。

香川県埋蔵文化財センターが同じ坂出市の金山・白山の東側の麓 五色台・国府台の山との鞍部にあるのを知って、念のため電話を教えてもらい、電話で金山周辺で サヌカイトが簡単に見られるところの教をを請う。

「金山」は 個人の所有になっていて やっぱ 頂上への道ははっきりしない。 サヌカイトを見たいならば、

「金山の南側の国道11号線の金山トンネルを東に抜けたところに溜池があり、その水際に水がない時にはサヌカイトが見える。保証はしないが、このあたりで探すのが、一番容易。」と教えてもらう。

地図を拡げ、「これが一番確か」と金山の南側に廻って、其処から金山の頂上への道を探しながら、北へ金山を越えることにする。トンネルの中を歩くのも嫌なので、タクシーに地図を見せて、国道11号線金山トンネルを抜けた池の縁で降りしてもらう。

5分ほど南へ行ったら坂出の街から丘陵地にかかったところで東西に丘陵地を走る国道11線にであい、東にトンネルを抜ける。坂出の街がうその様な四方小さな小山が並び立つ山中に飛び出て、国道がこの山間を真直ぐ東に抜ける。道のすぐ横下に溜池が見えるが、人家はまったくなし。ここが地図の池だという。

国道の下に国道に沿って 2つに区切られた整備された溜池があり、金網が周囲に張り巡らされている。池の東の端に集落が見え、池の向こうには 城山の斜面が池のほうにせまり、その山裾を道が東西にこの山中を抜けている。



国道11号線 金山トンネル

一方 西側は山と山の間に狭い空間が抜けていて 池の土手の下から田園が広がり、その向うにぽっかりと富士山の形をした讃岐富士が見える。本当にハイキングの里山歩きのような感覚である。



西に讃岐富士が顔を出す金山 南の麓



国道の北側 金山

国道と池の間に小道があり、東に池に少し突き出た小さな広場へと続いている。池の縁を見たり、国道側を見たりするのですが、サヌカイトの岩良く解らず。 前回二上山へ行った時はよう見つけませんでしたでしたが、今回は金鎚を入れてきたので、石を割れ

ば黒い破面が見えるはず。木々に囲まれた小さな広場はよく整備されていて、そこに幾つもの祠が集められ、金山を背に立っていた。祠の前に「奥池土地改良区」の名が刻まれた石灯籠が立っている。

国道11号線のバイパス工事とともに奥池・新池が整備され、周辺にあった祠がここに集められたのだろう。

はっと築くと祠の載せられている台座が黒い割石を積み上げて出来ている。これは おそらく「サヌカイト」または「サヌカイト質安山岩」。

石垣や土手にサヌカイトを積み上げたところがあると聞いていましたが、さすが本場である。

スパッと割った破面が良くそろって 積み上げられている。

「やっぱり この周りにサヌカイトがあるんだ」と俄然探す元気が出て来て、リックから金鎚を取り出し、広場の周辺に眼を凝らす。

金網の端に顔を出している石に目をつけて、思い切り金鎚で叩くと「カーン」といい音がして、スパッと割れ、色黒々のリバーパターン状の平坦な破面が出ている。

自分の手で初めて出したサヌカイトの破面

自分で見つけるのは難しいかも?? と半分思っていました が、もう 感激でした。



祠の台座に使われたサヌカイト



顔を出している石を金鎚で叩くとスパッと割れ、色黒々のリバーパターン状の平坦な破面が出た

しばらく広場から金山や向かいの城山を眺めながら、金山長者や城山長者がいたという時代を思い巡らせながら、元の池の北西端に戻り、池の土手を廻り、池の縁をめぐりながら、金山へ向かいました。

池の南側で舗装された道路に出ると金山全体の姿が見える。やっぱり、緑の樹木に包まれ、道らしきものなし。僅かに東の集落から山裾を越えてゆく道が見える。

池の縁を東へ行くと道に沿ってポツリポツリと持ち寄り一段高いところに家がある。その家に入る枝道にはサヌカイトが詰まれた小道がついている。家の周りを覗くと生垣の下にもサヌカイトが積まれたの見える。いたるところにサヌカイトがある。

人っ子一人いない里山のハイキング。ぶらぶら歩いて池をめぐって 反対側 池の東端の集落に入る。地図にある北峯の集落。集落の中でそのまま東へ城山の麓をめぐっていく道と別れ、北へ金山へ登ってゆく道を行くとすぐに国道 11 号線の陸橋を渡って、金山の山裾に入る。

人がいないので 道を確認することもできず、足任せ 風来坊である。

陸橋からは国道 11 号線の向うにまた きれいな讃岐富士が顔を出している。



奥池の南西端より 円錐の山を前に奥へ伸びる金山全体が見える 2007. 8. 6.



民家へ入る小道に積み上げられたサヌカイト 池の南東側からは金山が円錐の形に見える



金山への国道 11 号線の陸橋から西 きれいな讃岐富士が見える 2007. 8. 6.

注 今回 金山周辺で叩き割ると黒い破面が出る石を「サヌカイト」としたが、同じような石とし班晶のあるサヌカイト質安山岩がある。私には現地での目視では見分けがつかず、すべてサヌカイトとして記述した。

サヌカイトの方が斑晶がないだけ、フラットな破面 澄んだ金属音になると思われるが、その差は良く良からない。

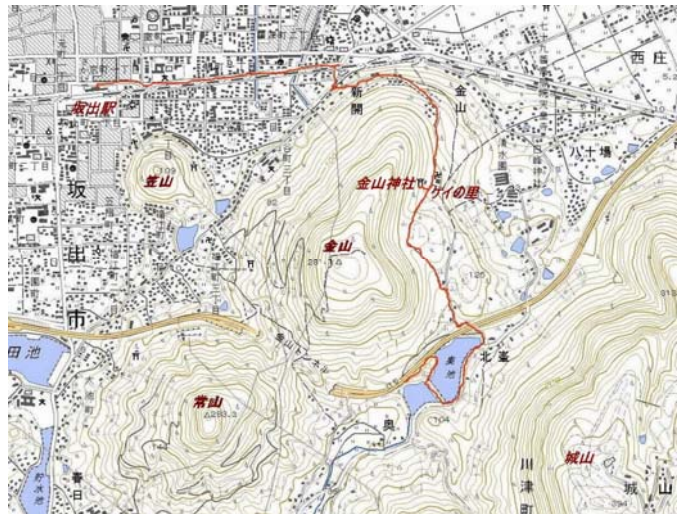
3. 「金山」を歩く

陸橋を渡って、金山へ登ってゆく。こちら側の山裾にも家並みがある。

少し登ったところで、道が二つに分かれ、舗装道路は東へ山裾を巻く。出来るだけ頂上部への道を探すため、舗装道路と別れ、左の山側の道を登ってゆく。



金山を東へ巻く道との分岐



金山周辺の地図 と歩いた道

分岐からきつい坂道を登ると一段高い金山の東斜面の一段上の台地になっていて畑が広がり、畑と山際の間を山道がまっすぐ北へ延びている。左手の金山は人の手が入っていないのか うっそうとした緑に包まれている。

また この畑が広がる手前の坂道には数軒の家が並んでいて、やっぱりサヌカイトが土台に積まれ、畑のあぜにもサヌカイトの残片が載せられている。



金山南東中腹の高台に広がる畑・果樹園に隣接した集落でみたサヌカイト 2007. 8. 6.

集落を抜けたところの畑に やっと 仕事をしているばあさんに出会えた。

「金山の頂上の方へ上ってゆく道教えてほしい」と声をかけると「道はないことはないが、そんなかつこうで、また 一人では余計無理だ。」という。「何で???」と不思議に思って 聞き返す。 要は道は手入れがされていないので、なたで枝木を払いながら行かないと進めないのとちょうど マムシがうじゃうじゃ出てくる季節で 長靴はいて 長袖の服着てゆかないと 危なくて進めないという。トラックで訪ねてきた爺さんも 同じことを言い、一人では駄目だという。

「サヌカイトの黒い石がゴロゴロあるのを見たいんだ」と言うと、真直ぐ北へ畑や果樹園の間を抜けてこの道を行けば、黒い石などいくらでも見られるし、坂出の街まで 金山を通り抜けられるという。

もう サヌカイトも見だし、マムシがぼたぼた出てくると聞いて、怖気もあって、土地の人の言うとおり、山の中腹の巻き道を北に進むことにする。でも まだ半面 道があれば入っていこうと道を探しながら歩くのですが、山はほとんど手が

入っていないのか、倒木や雑木が重なり合っていて、入ってゆけそうでなし。
でも 気持ちのいい里山歩きである。



金山の中腹の台地の上 山腹に沿って北へ伸びる道 山は人の手が入っていないうっそうとした森

畑を通り抜けるとぱっと東北側の平野部が開け、坂出の平野部の向うに五色台の山並みが見える。

なにか金山を見上げながら畑の山道をてくてくと歩いてきたのですが、眼下に広がる平野や遠望される山々を見ていると山の中にいることが実感される。そして、今見えているこの一帯がかつて 縄文人がサヌカイトを採取したところであり、この金山の中腹の高台にも数多くの縄文人がサヌカイト採取に登ってきたのだろう。

この一本道のあちこちにも 最近のものでしょうか、サヌカイトの破片が散らばり、道の傍らにもサヌカイトの石が黒いその破面を見せている。山の中にもいくつも大きな石があり、あれも叩き割れば黒い破面を見せるに違いない。



金山の山中から 果樹園の向うに ぱっと五色台が遠望できました 2007. 8. 6.



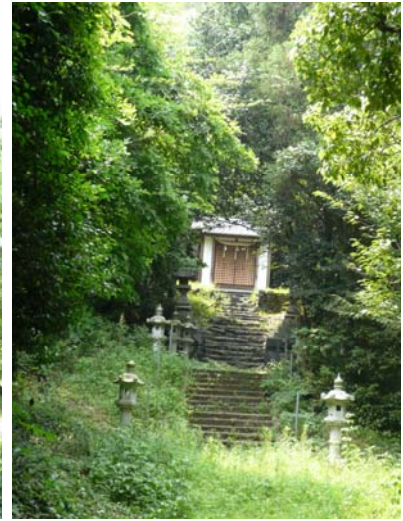
金山の中腹を北へ抜ける一本道には 所々でサヌカイトがみられました 2007. 8. 6.

果樹園を抜けると道はうっそうとした森の中の道となって 山を巻きながら北へ続いている。

金山の入口から 30 分ほどで 神社の鳥居の前の広場に出る。雑草がしげっていて ここにも人の気配がしない。

でも 鳥居の周りに咲く山野草がきれいである。鳥居の奥 石段の上に社が見える。

地図からするとここが金山神社。今は荒れているが、石垣で区切られた平地が山中に形成され、石灯籠や野仏が祭られ、昔は随分にぎわったに違いない。



金山の山中 金山神社 2007. 8. 6.

この金山神社は金山の地の神で旧川津村の守り神である。そして 良く解らないのですが、祭神が金山彦 そして この神社のあるところが 旧川津町鋳物師屋の知名だという。 ひょっとすると この山中に昔 製鉄に絡んだ集落があったのかもしれない。誰に聞いても鉄の痕跡はないといわれたのですが・・・・。

金山神社からさらに北へは道が少し広くなって真直ぐ森の中を道が続き、ところどころに野仏が道の脇に祭られている。

多分 こちら側が参道なのだろう。神社から少し北へ行ったところで、立派な門があり、大きな石が飾られている屋敷の前に出る。「金山けいの里」と石に彫られた門標がある。ここがインターネットでみたこの金山を持っておられる前田氏の「けいの里」のようだ。



金山 けいの里 (本来 非公開ですが、入れていただきました) 2007. 8. 6.
中央奥にサナカイトとの大きな板がつるされているのが見える。



金山 けいの里で (本来 非公開ですが、入れていただきました) 2007. 8. 6.

門を入るとあちこちに大きな石が置かれ、右手奥にスライスした大きなサヌカイトがぶら下げられている。インターネットで見たサヌカイト楽器「ケイ」のようだ。すぐ傍に工房が見えたので 声をかけると前田さんが出てきてくださったので、南側から金山の山中を縄文人のサヌカイト鉱山見たさに歩いてきたことなどを告げる。

現在はサヌカイトを守るためこの山全体を公開していないとの事であり、突然の訪問にもかかわらず、工房やサヌカイトで自作されている石琴などを快く見せていただくと共に、庭にある大きなケイを叩かせてもらった。

まるでお寺の鐘そっくりな澄んだ響きにビックリすると共に叩く位置によって 音色が変わるのにもビックリ。

静かな緑の森に響き与えるサヌカイトの音を聞けて本当に感激。

デジカメにケイの音色を録音させてもらった。

ぼくの興味だったこの「金山」と「鉄」との関係についてもお話しましたが、聞いたことがないとの事でした。

この「金山」に鉄のイメージ重ねているのは僕だけかもしれません。

でも 四国ではじめての古代の製鉄炉 今治の高橋小夜ノ谷Ⅱ遺跡のたたら炉も昨年突然見つかりましたし、この金山でもそんな痕跡が見つかるかもしれません。

もう 満足一杯で快く見せていただいた前田さんに感謝しつつ、ケイの里を後にしました。

静かな森の中の一本道真直ぐ北へ歩いて、「金山」の北側へ 山の下での境での街がちらちら見え出したところに大きな門があり、道はこの門を通り抜けて、住宅地の坂の上に繋がっていました。南から歩いたので、前田さんの所有地への立ち入り気にせず、真直ぐ「金山」の東の中腹を歩いてきましたが、この門で金山全体が個人の所有地内であること理解です。



前田氏制作のサヌカイトの楽器「けい」

○ 楽器「けい」を叩いた時の音

まるで お寺の鐘 2007. 8. 6.

○ 参考 「カンカン石」と呼ばれるサヌカイト

http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/fkobe/0709_jamon00.htm



「けいの里」周辺の森の中 あちこちにサヌカイトがありました



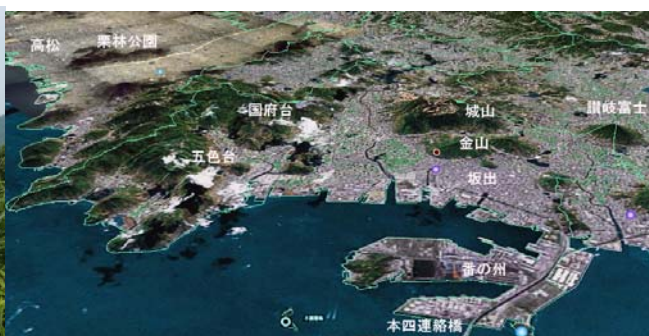
前田さんの私有地 「けいの里」 金山への入口

4. サヌカイトの原産地 坂出の「金山」を歩いて



坂出駅側から見た「金山」 2007. 8. 6.

四国坂出の街の背後北側にぽっかりある小山「金山」。縄文人達が道具や武器制作の材料として採取した「サヌカイト」の原産地。 緑の森に包まれたサヌカイトを探しながらの約2時間の里山歩き。山の頂上部には立ち入ることが出来ませんでしたが、Walkのあちこちで こんなに 広くサヌカイトが縄文の昔だけでなく 広くつかわれていたのか・・・とびっくり。手にとって見ることでできないのではないかと心配しつつやってきた「四国 金山」でしたが、沢山のサヌカイトに出会い、自分の手にとって 「叩いて黒い破面を出してみたい」との願いがかなえられて 本当に満足です。また、直に 大きな岩を薄くスライスして制作された楽器「ケイ」を叩いて 静かな森の中に澄んだ音を響かせられたのも感激でした。



「金山」の北側中腹より 讃岐平野・五色台を眺める 2007. 8. 6.

「金山」の坂の上からは 讃岐平野越しに五色台の山並みが見渡せ、縄文時代には おそらくは「金山・城山」や五色台のふもとまで海が迫り、この金山は海からの格好の目印 この金山を目指して 多くの縄文人がやってきたろう。



金山の神 金山神社から琴平金比羅宮が分かれていったという伝承も本当なのだろう。

「金山」から坂出の街に下る坂道で 2007. 8. 6.

また、この山の周辺から「鉄」の痕跡が出てくれば、それもまた もっと大きな広がりがあるだろう。

金山周辺の民話の世界にもまた、興味津々。金山長者と城山長者そして 城山長者の娘と結婚した「炭焼き友造」これが 鉄の痕跡ではないかと今も思っています。

特に「炭焼き友造」が大阪に出て 繁栄して「スミトモ」を名乗ったなどは 四国の「住友」とのつながりもちらちら。戦争中に 金山のボーキサイトを採取して 新居浜住友の精錬所でアルミニウム製造に関係した追記かもしれないなあ・・・などと一人一人楽しみながら山を降りて坂出の駅へ。

山を下り始めると同時に真っ黒な雲が現れ、坂出駅に着いたときには、大粒の雨になりました。

リュックサックの中には金山周辺で拾ったサヌカイトの石が数個入っている。

あれやこれやはるかに増えた 縄文のサヌカイトの情報

ルンルンの四国坂出 「サヌカイト」を訪ねてのCountry Walk でした。

2007. 8. 6. タ サヌカイトの澄んだ響を思い出しながら

Mutsu Nakanishi

